

2025 年度 International Pacific Writing Group 活動報告書

報告日：2026 年 3 月 19 日

分野名：がん看護学分野

氏名：土井智生

【活動概要】

- ・参加大学：ミネソタ州立大学マンケート校、国際医療福祉大学、大阪医科薬科大学、等
- ・開催日時：

	Semester I		Semester II	
第 1 回	9 月 3 日 (水)	9:00~10:00	1 月 21 日 (水)	10:00~11:00
第 2 回	9 月 17 日 (水)	9:00~10:00	1 月 28 日 (水)	10:00~11:00
第 3 回	10 月 1 日 (水)	9:00~10:00	2 月 11 日 (水)	10:00~11:00
第 4 回	10 月 15 日 (水)	9:00~10:00	2 月 25 日 (水)	10:00~11:00
第 5 回	10 月 29 日 (水)	9:00~10:00	3 月 4 日 (水)	10:00~11:00
第 6 回	11 月 12 日 (水)	10:00~11:00	3 月 18 日 (水)	9:00~10:00

※日本標準時

- ・活動内容：本企画はミネソタ州立大学マンケート校主催となり、複数の国の研究者が看護研究に関する最新のトピックについての議論を行う。国際雑誌への論文掲載を目指してオンラインミーティングを行った。

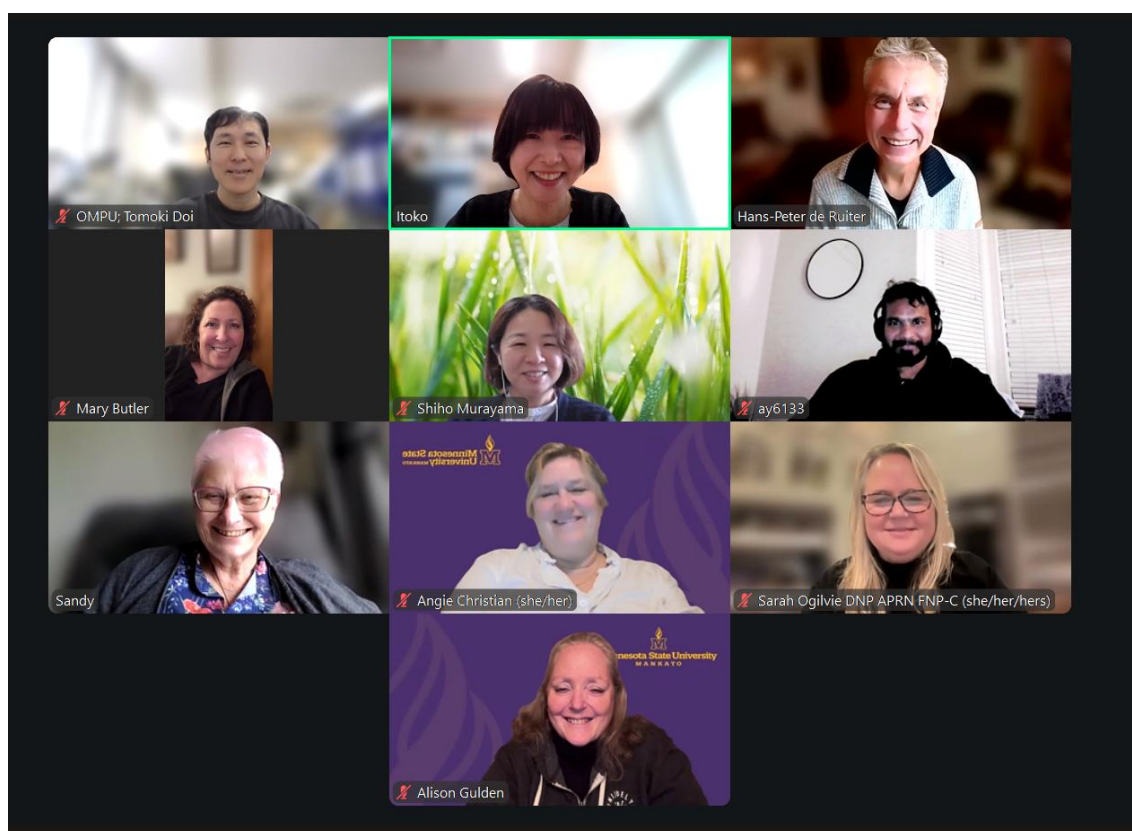
【所感】

今年度初めてこのミーティングに参加させていただきました。英語を理解するためにいろいろなツールを活用しながらの参加となりましたが、意見を述べる時には、私の拙い英語を理解しようと忍耐強く対応してくださる方々ばかりで安心して参加することができました。

今回の計 2 セメスターでは、主に 2 つのテーマについて議論をしました。1 つは、近年目覚ましい進展を続けている AI に関するトピックです。まずは普段の研究活動に AI 技術をどのように活用しているのか、活用していく上での注意点は何か、どのようなツールを活用しているかといった事柄について意見交換をしました。便利な最新技術についての知見を得られただけでなく、海外でも同じような悩みや課題に向き合いつつ、より良い研究に向けて試行錯誤していることを共有することができました。もう 1 つは、研究論文の投稿先の選定や査読プロセスについてです。投稿先の選定については AI 技術を効果的に活用できる可能性があることが印象的でした。もう 1 つ印象的だったのは、査読に対する皆さんの考

え方です。AI は要約をしたり物事を統合して記述したりすることはとてもうまくできますが、AI に査読コメントを作成させると執筆者が伝えたい原稿の意図と乖離することもあり、やはり研究者が文脈の中で伝えたいことを正しく理解して誠実に査読コメントを返すうえでは、人の力が重要になることを学びました。また、査読者も評価を受けているということも知りました。査読者を選定し依頼するプロセスやその過程での悩み事などについては初めて知ることばかりで、とても新鮮でした。

看護に関する諸問題は各国の文化や文脈、諸制度の違いにより異なることも多いですが、本質となるものは共通しているのだということも知ることができました。慣れない英語での議論についていくことに必死なことも多かったです。最後まで継続して参加したいという熱意を持ち続けられたのは、終始英会話教室かのような和やかな雰囲気を作ってくださった皆様のおかげです。英語論文を読むことや原稿を書くことはあっても、**speaking** でアウトプットすることはほとんどなかったので、大変貴重な機会だったと思います。このミーティングで得た学びのみならず、縁あってつながることができた国際的な研究者のコミュニティを大切にしながら、今後も研究活動に取り組んでいきたいと思います。ミネソタ州立大学マンケート校の Hans 先生はじめ、今年度のミーティングに参加された皆様にご心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



2025 年度 Semester I 写真 (2025.11.12)



2025年度 Semester II 写真 (2026.3.18)